

社会とともに

地域社会への責任

地域の皆様と協力しながら、地域コミュニティの活性化に貢献しています。



2017年度の取り組み

■ 次世代育成

YAP-P（ポーランド）では、2017年12月から事業所近隣の児童養護施設において、家具の修理や壁の塗装などの改装や、施設で暮らす病気の児童のリハビリ費用を援助をしています。また、毎月3回約20名の従業員が施設を訪問し、子どもたちに勉強を教えたり相談相手になったりと、継続的にコミュニケーションを重ねています。この活動に対し、施設代表者から感謝状をいただきました。YAP-Pでは今後も活動を継続し、すべての従業員が地域の次世代育成に参画することをめざします。



感謝状授与の様子



従業員が制作したベンチを寄贈

■ 障がい者の就労支援

丹心工業（株）（静岡県湖西市）では、静岡県立浜名特別支援学校の高等部の生徒を対象に、2008年から社内実習の受け入れと学校訪問を行っています。年に1度の社内実習では、ワイヤーハーネス製造用治具の組立作業などを行い、製造現場での就労実習の機会を提供しています。また学校訪問では、年に2回、教材用の組立治具部品を持参し、10名程度の学生を対象に組立作業を指導しています。これらの活動を通して、障がい者雇用の促進はもちろん、多様性を尊重し、一人ひとりの能力が最大限発揮できる働く環境づくりをめざしています。



社内実習の様子

■ 通学路の除雪作業

矢崎エナジーシステム（株）富山支店のある富山市は、日本海側気候の影響を受け、冬季は市街地であっても多くの降雪がある地域です。支店前の歩道は、近隣小学校の通学路に指定されていますが、雪が積もった歩道は歩きづらく、児童が転倒し怪我をする恐れがありました。このため富山支店では児童の安全を第一に考え、通学時間前に除雪を終えるため、全従業員が出社時間を早めて除雪作業に取り組んでいます。今後も、通学路の安全確保に努めます。



除雪した通学路

■ 東日本大震災復興支援
海岸林再生プロジェクトへの参加

矢崎エナジーシステム（株）仙台支店およびテクノ矢崎（株）東北支店（宮城県仙台市）は、2016年4月より公益財団法人オイスカが主催する海岸林再生プロジェクトへ参加しています。

このプロジェクトは、2020年までに約50万本の育苗・植栽を行い、「白砂青松」といわれる美しい景観だけでなく、防風や防砂など人々の生活を支える機能をもつ海岸林の再生をめざしています。2017年度はのべ28名の従業員が活動に参加し、震災の被害を受けた宮城県名取市の海岸においてクロマツの植樹やツルマメ草の除草を行いました。



クロマツ植樹の様子



TOPICS

サモアの未来へつなぐ

矢崎EDSサモア（以下、YES）は、事業撤退に際して再就職支援のためにさまざまな施策を講じました。そのひとつが、無料で受講できる就職支援セミナーの開催で、面接対策や履歴書の書き方など就職活動に役立つ一般的なスキルのほか、サモア国内における職業の需要を考慮し、運転免許証の取得支援やホテルの基本サービスの講習などを行いました。従業員の一人は、「布の染色」の講習会を受講したことをきっかけに、「Riverside Tie Dye」というブランドを立ち上げ、市場などで販売しています。

また、サモア国内には就職先が少ないことから、サモア以外の矢崎グループの事業所で働くことを希望したYES従業員3名が日本の事業所へ転籍しました。3名の従業員は、ことばや文化の違いに戸惑いながらも、新天地で新たな人生を歩んでいます。



日本で活躍するサモア人従業員

矢崎きずな基金

当社は2018年1月に一般財団法人矢崎きずな基金（以下、きずな基金）を設立しました。きずな基金は、開発途上にある海外地域の発展に資することを目的に、奨学金の給付による教育支援と雇用創出をめざす事業支援を行う法人です。

初年度となる2017年度は、サモアの将来を担う人材の育成をめざし、サモア国立大学に通う学生6名に対して奨学金の給付を開始しました。同年4月に開催した奨学金の授与式では、奨学生一人ひとりからきずな基金への感謝の思いと将来の抱負が語られました。その様子はサモアの現地報道にも取り上げられました。きずな基金は今後、サモアの経済発展に寄与する小規模事業を支援することをめざし、サモア政府関係者と対話を進める予定です。



授与式の様子